

## ニュースリリース

2011年11月7日

メルク株式会社  
メルクセローノ株式会社

※本リリースはドイツ本社10月26日発表英文リリースの抜粋・抄訳です。

### Merck KGaA、2011年第3四半期の決算を発表 総売上高は前年同期比4%増の25億ユーロを達成

- 厳しい経済環境下で、本業業務にて6.9%の売り上げ拡大を達成
- 純利益は7.5%増の2億2,700万ユーロを達成
- 2011年のグループガイダンスは維持 — 2011年のコア営業利益は約22億5,000万ユーロの見通し

メルク株式会社(本社東京、会長兼社長カール・レーザー)およびメルクセローノ株式会社(本社東京、社長マーク・スミス)の親会社であるMerck KGaA(ドイツ・ダルムシュタット市、会長カール・ルドウィッグ・クライ)は、10月26日、2011年第3四半期の決算を発表しました。

#### 主要決算数値

メルクグループ(100万ユーロ)	2011年 第3四半期	2010年 第3四半期	増減 (%)	2011年 1~9月	2010年 1~9月	増減 (%)
総売上高	2,531.6	2,437.8	3.8	7,650.7	6,744.7	13.4
営業利益	333.3	363.5	-8.3	693.4	984.4	-29.6
特別計上項目を除外したコア営業利益 <sup>1</sup>	551.5	624.0	-11.6	1,729.2	1,557.8	11.0
純利益 <sup>2</sup>	226.6	210.8	7.5	481.8	585.6	-17.7
一株あたり利益(ユーロ)	1.04	0.97	7.2	2.22	2.69	-17.5
一株あたりコア利益(ユーロ) <sup>3</sup>	1.91	1.95	-2.0	4.89	4.95	-1.3

※1. 特別計上項目と、メルクセローノおよびメルクミリポアに関する無形資産の償却分ならびに統合費用、パフォーマンスマテリアルズ事業部における無形資産の減損分を除外したコア営業利益 ※2. 非支配持分調整後純利益 ※3. メルクセローノおよびメルクミリポアに関する無形資産の償却分ならびに統合費用に関連する税の影響、パフォーマンスマテリアルズ事業部における無形資産の減損分、その他の例外項目を除外した一株あたり利益

Merck KGaA 会長のカール・ルドウィッグ・クライは、「第3四半期は厳しい経済環境に置かれながらも、主としてメルクセローノ事業部とメルクミリポア事業部の好調な業績にけん引され、メルクグループは堅調な業績をあげました。売り上げの拡大によって今期は8%の増益となり、また昨年度からの一時費用項目の算入がなかったために、万全の体制で年度末に向かうことができます。変革に向けた当社の取り組みは着実に成果をあげつつあり、2012年前期中には、この取り組みに関する重要な報告ができる予定です」と述べています。

## ニュースリリース

医薬品事業とメルクミリポア事業部のライフサイエンス事業の堅調な業績に支えられ、2011年第3四半期のメルクグループの総売上高は、前年同期の24億3,800万ユーロから3.8%増の25億3,200万ユーロとなりました。売上げの伸びは、2.2%の為替のマイナス影響を受けたほか、売却資産の減損分によって、0.9%縮小されました。これらの影響を除いた調整後の本業業務の売上げの伸びは6.9%でした。

2011年第3四半期の一般管理費は1億2,400万ユーロで、前年同期から2.7%減少しました。その他の営業収支は前年同期の9,100万ユーロから1.3%減の9,000万ユーロとなりました。研究開発費は前年同期比6.4%増の3億7,100万ユーロでした。これは、多額の費用を要するメルクセローノ事業部の後期臨床試験の実施と、今期中のスイスフラン高によるものです。

無形資産の償却費は前年同期の1億9,800万ユーロから7.4%増加して、2億1,300万ユーロとなりました。これは、ミリポア買収価額の配分に関連する無形資産の償却費4,700万ユーロおよびセローノ買収に伴う無形資産の償却費1億6,400万ユーロが計上されたためです。

メルクセローノおよびメルクミリポアに関する無形資産の償却費用と一時費用を除外したコア営業利益は、5億5,200万ユーロとなり、売上高営業利益率は21.8%でした。前年同期のコア営業利益は6億2,400万ユーロ、売上高営業利益率は25.6%でした。今期の営業利益率の低下は、パフォーマンスマテリアルズ事業部がエンドユーザー側の各業界における景気の低迷に直面し業績を低下させていることと、研究開発費が増加していることが主な要因となっています。

2011年第3四半期は、課税額が56%減少して3,300万ユーロとなり、グループの税引き後利益は、前年同期の2億1,500万ユーロから7.2%増加して、2億3,000万ユーロを計上しました。

### 事業部の実績概要

#### メルクセローノ事業部

メルクセローノ事業部は、各国政府やその他の支払い機関がヘルスケア関連支出を削減する傾向にあるという厳しい環境にありながらも、堅調な業績をあげ、2011年第3四半期の総売上高は、前年同期の13億9,300万ユーロから5.4%増加して、14億6,900万ユーロとなりました。売上げの伸びは、為替のマイナス影響による1.9%減に加え、Théramexの婦人科事業の売却による減損分のため1.5%縮小されました。これらの影響を除いた2011年第3四半期の本事業部門の売上高の伸びは8.9%でした。

再発型多発性硬化症の治療薬 **Rebif**<sup>®</sup> の2011年第3四半期のグローバルでの売上高は、前年同期から8.4%増加して4億2,600万ユーロとなりました。分子標的抗がん剤 **Erbitux**<sup>®</sup> の売上げは、主に新興市場での売上高が伸びたことによって、前年同期に比べて4.7%増の2億1,800万ユーロとなりました。

メルクセローノ事業部の2011年第3四半期の営業利益は、前年同期の2億1,000万ユーロから17%減少して、1億7,400万ユーロとなりました。無形資産の償却費用と一時費用を除外したコア営業利益は3億3,800万ユーロで、売上高に対するコア営業利益率は23.0%となりました。前年同期のコア営業利益は3億5,800万ユーロ、コア営業利益率は25.7%でした。

## ニュースリリース

### コンシューマヘルスケア事業部

コンシューマヘルスケア事業部の 2011 年第 3 四半期の総売上高は、前年同期から 6.3%増加して 1 億 3,300 万ユーロとなり、本業での伸びは 7.1%でした。2011 年第 3 四半期は、すべての市場で売り上げを伸ばし、とりわけドイツ、ロシア、インドの各市場での堅調な業績が当期の売り上げの伸びにつながりました。

コンシューマヘルスケア事業部の 2011 年第 3 四半期の営業利益は前年同期の 1,600 万ユーロから 3.2%増加して 1,700 万ユーロとなりました。

### メルクミリポア事業部

メルクミリポア事業部の 2011 年第 3 四半期の総売上高は 5 億 8,800 万ユーロとなり、前年同期の 5 億 5,900 万ユーロから 5.2%増加しました。売り上げは 3.5%の為替のマイナス影響と、事業買収による 1.5%のプラスの影響を受け、本業での売り上げの伸びは 7.3%となりました。

バイオサイエンス・ビジネスユニットは、医薬品企業向けを中心に、北米市場での好調な業績にけん引され、売り上げを拡大させました。中国およびインドでの売り上げは 2 桁の伸びを示しています。同ビジネスユニットの取り扱い製品の中でも、フローサイトメトリーをはじめとする細胞生物学関連製品が、引き続き急速に売り上げを伸ばしています。ラボソリューションズ・ビジネスユニットの売り上げの拡大は、ラボラトリーウォーター部門の取り扱い製品およびバイオモニタリング関連製品の好調な販売に支えられています。プロセスソリューションズ・ビジネスユニットは、新興市場での堅調な業績に加え、世界のバイオテクノロジー企業がバイオ医薬品やワクチンの製造を拡大したことによって、バイオテクノロジー企業向け製品の売り上げが 2 桁の伸びを示したことが、売り上げの拡大につながっています。

メルクミリポア事業部の 2011 年第 3 四半期の営業利益は、前年同期の 1,300 万ユーロから 5,300 万ユーロへと大幅に増加しました。一時費用と買収無形資産の償却費用を除外したコア営業利益は、1 億 700 万ユーロとなり、売上高営業利益率は 18.3%でした。前年同期は、コア営業利益が 1 億 2,500 万ユーロ、売上高営業利益率は 22.4%でした。

### パフォーマンスマテリアルズ事業部

パフォーマンスマテリアルズ事業部の 2011 年第 3 四半期の総売上高は、前年同期から 5.2%減少し、3 億 4,200 万ユーロとなりました。為替による 1.7%のマイナス影響があったことに加え、今年 2 月の Crop BioScience 事業の売却に伴う売上減少が 2.2%あり、売り上げの伸びが縮小され、当期の本業での売り上げは 1.3%の減少となりました。

液晶事業の本業での売り上げの伸びは、2011 年第 3 四半期は減速する経済環境の影響により顧客企業が在庫を縮小させたことから、2.4%に留まりました。ピグメンツ&コスメティクス事業は、事業領域全般で需要が低下し、販売量が低下したために、本業での売り上げは 12%の減少となりました。



## ニュースリリース

全文リリースはウェブサイト上の英文資料をご参照ください。

( [http://news.merck.de/N/0/2BF808D7F98015B9C125793400546512/\\$File/Q3-2011-E.pdf](http://news.merck.de/N/0/2BF808D7F98015B9C125793400546512/$File/Q3-2011-E.pdf) )

### 本件に関するお問い合わせは下記まで

化学品事業：メルク株式会社人事本部 広報グループ ピンスカーまたは西上（電話：03-5434-6270）

医薬品事業：メルクセローノ株式会社 コーポレート・コミュニケーション 正木（電話：03-5424-8737）

### メルクについて

メルクはドイツのダルムシュタットに本社を置く世界的な医薬品・化学品会社で、2010年総売上高は約93億ユーロです。会社としての起源は1668年まで遡り、現在世界67カ国で事業を展開、グループ従業員総数は約40,000人です。メルクは起業家精神にあふれる従業員のイノベーションによって成功を収めてきました。グループの事業活動は Merck KGaA のもとで行われています。全株式の30%が市場で取り引きされており、残りの70%はメルクファミリーが合資会社を通じて保有しています。1917年、当時の米国子会社 Merck & Co. の資産が接収された後、同社はメルクからは完全に独立しています。

メルク株式会社はメルクの日本法人として1968年に設立、液晶や顔料などの特殊化学品とライフサイエンス分野の幅広い製品を手がけています。メルク株式会社についての詳細は、[www.merck.co.jp](http://www.merck.co.jp) をご覧ください。

メルクセローノ株式会社は、メルクの医療用医薬品部門とスイス Serono（セローノ）が2007年1月に統合され、メルクの医療用医薬品部門として新しく設立された Merck Serono（メルクセローノ）事業部（本社：スイス、ジュネーブ）の日本法人です。日本市場においては、同年10月1日より事業を開始しました。

メルクセローノについての詳細は [www.merckserono.net](http://www.merckserono.net) をご覧ください。